

令和元年第3回定例会(令和元年9月20日)

予算決算特別委員会委員長 (黒木愛一郎 委員長)

予算決算特別委員会は、去る8月30日の本会議において、本委員会に付託を受けました「議第92号 平成30年度別府市一般会計歳入歳出決算の認定について」から「議第100号 平成30年度別府市水道事業会計歳入歳出決算の認定について」までの計9議案について、審査いたしました経過並びに結果についてご報告いたします。

平成29年度より、予算決算特別委員会に名称を変更し3年目となる本年も、「当初予算審議と決算認定審査の循環性を図る」とともに、「決算認定審査の意見を次年度の当初予算編成に反映する」ことを目的に9月定例会において、全議員による審査を実施いたしました。

9月4日においては、執行部の全体説明を受けた後に、委員4名による総括審査を実施いたしました。

また、9月5日においては、委員4名による個別審査を実施し、9月10日に採決を行ったところであります。

審査の過程において、財政構造の弾力性を判断する「経常収支比率」が0.3%改善されたものの、経常的収入から経常的支出を差し引いた額が約6億円しかないような状況で、財政負担を考えた際、今後予定されている「学校給食調理場」「図書館等一体整備」「ブルーラグーン」等の大型事業をどのように実施していくのか。

また、次年度より開始される「会計年度任用職員制度」の導入に伴い、経常支出である人件費の増加が見込まれるとともに、今後の人口減少、高齢化、経済見通しにより市の財政運営が困難になると見込まれるが、長期的視野で財政改革にあたる必要があるのではないか。

などの質疑がなされました。

また、意見として、実質収支は黒字であるが、単年度収支及び実質単年度収支は3年連続赤字に転じており、現時点で直ちに財政運営に支障をきたすものではないとしても、このまま継続することは問題である。年度ごとの具体的な検証を行い、財政管理を確実に行うこと。

地方債・基金の状況について、地方債残高は増加する一方で、主要基金は減少している。今後の公共施設大規模改修費、社会保障費の増加等により財政の硬直化が懸念される。国の動向を見据え、第4次財政計画にのっとり起債を行うこと。また、基金の運用率を上げるよう努力すること。

一方で、市税については増収となっている。これはコンビニ収納による利便性の確保に加え、収納率を上げるための職員の努力と評価するものである。今後も、県等との連携及び研修等による職員の資質向上を図り、収納額を上げていくよう推進し、継続して収納率の向上を目指すこと。また、新たな自主財源の確保を行うよう努めること。

健康増進事業、医療費適正化について、事業効果が上がっていることから、引き続き今後進む高齢化により増加する医療費負担の抑制を行うこと。

各事業に対しての決算から見受けられる事項として、改善できるところは柔軟に改善し、事業効果が上がるよう努めること。

以上のように、さまざまな質疑、意見が各委員からなされました。

審査の結果、一部委員から反対の意思表示がなされましたが、全議案について認定すべきものと決定いたしました。

なお、昨年度同様、委員会でとりまとめをおこなった改善提案等を次のとおり本委員会の意見書として市長に提案し、政策に活かすよう求めることといたしました。

1 持続可能な財政運営について

経常収支比率は0.3%改善し、97.5%となっているが、依然として義務的経費の比率が高く硬直化した財政状況が長期化かつ固定化してきており、実質単年度収支も3年連続で赤字となっている。

持続可能な財政運営を図るため、次の事項の実施を求める。

- (1) 歳入歳出の両面から収支改善に取り組むこと。
- (2) 実質収支の年度間の平準化を図り、財政運営に努めること。

2 効果の検証

「決算に係る主要な施策の成果に関する説明書」に示されている事業の評価について、現時点では目標とする成果が得られていない事業も見受けられる。組織体制の見直し等、費用対効果をしっかり見極め、事業成果が希薄な場合は事業の見直しも含め検討すること。

また、指定管理者制度について、事業報告を精査し、必要な指導監督を行うとともに、民間のノウハウを最大限に活用することにより、制度の趣旨である「市民サービスの向上」と「経費の削減」を図ること。

3 補助金の必要性の検証

各種団体への補助金は、団体運営費補助金やイベント補助金等があるが、特に団体運営費補助金は補助金額も大きく、事業内容の公益性と透明性を高めることが必要である。

当該団体の収支状況等、補助金交付の妥当性を十分に検証し、適正な補助金の執行を図ること。

4 次年度 令和2年度の予算編成等について

本意見書を令和2年度の当初予算編成に反映することを要望する。

また、予算審議と決算審査の循環性を図るため、令和2年（令和元年度決算認定審査）予算決算特別委員会において、その取り組みについての回答を求める。

以上、当委員会に付託を受けました議案9件に対する意見と審査結果の報告を終わります。